

令和 4年 9月

# 陶山淑子 学位論文審査要旨

主 査 片 岡 英 幸  
副主査 大 槻 明 広  
同 尾 崎 米 厚

## 主論文

Risk factors of free flap complications in reconstruction for head and neck cancer

(頭頸部癌に対する再建における遊離皮弁合併症の危険因子)

(著者：陶山淑子、八木俊路朗、福岡晃平、森田真紀、金城文、福原隆宏、藤原和典、小谷勇、尾崎米厚)

令和4年 Yonago Acta Medica 65巻 215頁～225頁

## 参考論文

1. Novel dual-reporter transgenic rodents enable cell tracking in animal models of stem cell transplantation

(新たなデュアルレポータートランスジェニック動物は幹細胞移植動物モデルにおける細胞追跡を可能とする)

(著者：森川久未、中村和臣、陶山淑子、山本堅志郎、福岡晃平、八木俊路朗、白吉安昭、大林徹也、久留一郎)

令和元年 Biochemistry and Biophysics Reports doi:10.1016/j.bbrep.2019.100645

2. Hemodynamic analysis of a three-point suture during tapering technique for microanastomosis using computational fluid dynamics

(数値流体力学を用いた微小血管吻合のテーパリング法における3点縫合の血行動態解析)

(著者：八木俊路朗、佐々木崇史、福原隆宏、藤井香綸、森田真紀、福岡晃平、  
生田健人、梅田竜之介、金山晴香、陶山淑子)

令和3年 The Journal of Craniofacial Surgery 32巻 2749頁～2752頁

## 審査結果の要旨

本研究は、頭頸部癌に対する再建における遊離皮弁合併症について後ろ向きコホート研究により、皮弁壊死および皮弁部離開という皮弁合併症発生の新たな危険因子を明らかにしたものである。既報告にある患者および頭頸部癌の要因を調整した上で、手術要因を解析し、従来の虚血時間に代わる危険因子として血管吻合1本あたりの時間(血管吻合時間)を提案した。その結果、血管吻合時間はいずれの合併症の発生に相関関係を認め、5分延びる毎に合併症リスクは1.4~2.3倍になり、さらに血管吻合時間は30分を超えると合併症リスクは3.4~8.3倍になることが明らかになった。再建外科医が血管吻合時間30分以下を達成することで、皮弁合併症が減少することが明らかになった。本論文の内容は、再建外科の分野で、血管吻合時間という皮弁合併症の新たな危険因子を見だし、再建外科医が目指す指標を明確にした点で明らかに学術水準を高めたものと認める。